

カマキリ

我が家では、この夏、色々な生き物が子どもたちの遊び相手として家をにぎわせた。

メダカ、ベタ、クワガタ、カマキリ、バッタ・・・なぜか蟬の抜け殻。

特に、3歳の長男は、生き物を観察することが楽しくてたまらないようだ。クワガタに怖々と触れる様子を見ていると、そういえば昔、・・・と自分の幼いころの様子を思い出す。

クワガタは夜行性のため、長男が起きている間は、土の中に潜っていてその様子を見ることができない。えさの交換を行うときに、ふたを開けると、小さな飼育箱に顔を入れる勢いで覗き込んでくる。ちょっと土を掘り返し、クワガタを外に出してやると大興奮で走りまわり、また傍に寄ってきては、クワガタの様子を家族に報告する。

数日前、家の庭でカマキリを見つけた。当然、長男は捕まえることができず、

「ねえ、カマキリ捕まえて。」

と私に元気な笑顔で言ってきた。捕まえてカマキリを見せると、ちょっと怖がりながら、まるで自分で捕まえたかのように誇らしげな笑顔を見せる。

また我が家に新しい仲間が加わった。飼育箱に入れたカマキリは、元気に動き回っている。

この時点で、カマキリは他の生き物を追い抜き、一気にランキング 1 位を獲得した。

朝起きると、飼育箱を横から覗き込み、また報告が始まった。私たちにとっては何でもないことが、息子にとっては重大ニュースのようだ。

「カマキリが壁を登っているよ。」

「上にくっついているよ。落ちないの？」

「ご飯は何を食べているの？」

息子の興味・関心はカマキリに注がれ、他の生き物の存在は、忘れがち。

2 学期始業式の朝。起きてきて顔を洗いに洗面所に行った長女が、

「ねえ、カマキリ皮を脱いでるよ。」

その瞬間、まだ眠そうにしていた長男のスイッチが入った。

「なに？なに？お洋服を着てたの？」

走ってカマキリを見に行き、抜け殻とカマキリを見て、

「2 匹になったよ。」

と走って戻ってきた。

3 歳の息子にとっては、脱皮の意味がよくわからず、1 匹から 2 匹になったことを単純に喜んでいるようだ。

我が家の生き物観察会は、夏休みが終わってもまだまだ続きそうだ。もちろん、子どもたちは観察会の会員であり、お世話係りは私であるが。